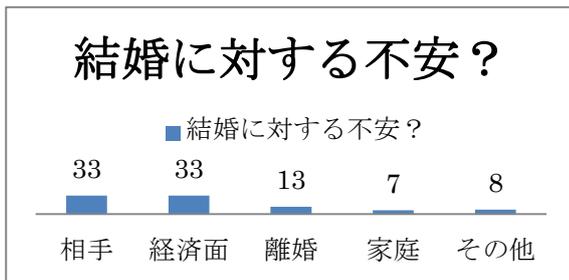


図IV



多くの大学生は結婚希望を持ち（図Ⅲ）、「相手が見つかるか」「経済面はどうするか」等の不安を持っている。（図Ⅳ）ここから、若い世代に結婚に向き合う機会を提供する需要を見いだせる。

一方、若い世代は、上記調査で（図Ⅰ）結婚より「学業（仕事）に打ち込みたい」と回答した。そこで仕事と結婚を両方考えたい若者の願いに応える「婚就活」を発想した。「婚就活」とは仕事と結婚を一体として考えることである。家庭生活のための貯蓄は、仕事の収入と不可分な関係にある側面がある。両者を同時に考えることで、両者をより建設的かつ具体的にイメージできると考えた。私たちは「婚就活」の発想を、結婚と仕事の計画を一体として行う「ライフプランニング」に具現化し、下記イベントを通してその効果を検証した。

2. 検証

図V



図VI



私たちは、株式会社IBJ(2015年東証一部上場)と連携し、若者(20~35歳)がライフプランニングを通して結婚と仕事に向き合うイベント「婚就活シンポジウム」を開催した。ライフプランニングの方法は、表(図VI)のように年数を基準にして、キャリアと家庭生活における「夢」また、特定の年数が経過すると迎えるライフイベント(介護や子供の学校入学など)を描いていく。それらの「夢」やライフイベントにかかる費用も割り出す。そして計画した夢やライフイベントやそれらにかかる費用に対し、現在、どのような準備が必

要かを言語化した。

3. 結果

ライフプランニングによって「経済的な不安」が和らぎ、結婚や将来に前向きになれる効果がみられることが分かった。

✓アンケート結果(22人中)

→経済的な不安が和らいだ(14人)

(イベント実施前、15人が「経済的な不安がある」)

→結婚に対する不安が和らいだ(5人)

→自分の将来を考えてみようと思った(19人)

4. 考察

結婚意思を持ち、2, 3人の子供を授かりたい若者の存在(平成27年八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略)は、現在の結婚率及び出生率とは差がある。その理由は、当事者が経済面や行政サポート(子育て等)に対する無知からくる、計画性の欠如にある。学生など、若いうちから、将来のイメージを持たせ、時間軸に沿って、準備すべきことを自覚する。将来への準備体制を作り上げることが、「結婚」や「出産」という未来を作り上げる。社会でその体制をつくることをサポートすることが少子高齢化問題解決のカギとなる。

5. 提案

18~24歳の未婚及び、既婚の若者対象にした「ライフプランニングイベント」を八王子(広報、地域の情報提供、行政サービス紹介)+大学生(若年層への啓発)+株式会社IBJ(ライフプランのノウハウ)の三者が協力して開催する。

✓メリット

- 自治体の情報を活用したプランニングが出来れば、若者に結婚意識上昇や不安解消等の効果を及ぼすだけでなく、八王子の魅力や、既存の行政サービスを知らせてもらえる契機にできる。

- 自治体職員と企業職員、市民の交流の場となり、地域活性化につながる

- 大学生が多い八王子は他地域より多くの若者にアプローチが出来、国益に貢献できる。

- 内閣府による「地域少子化対策重点推進交付金」を受給できる可能性がある。